様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３７１２６
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2020
課題番号：１７Ｋ１２５１８

研究課題名（和文）精神的看護ケアの質向上を目指したシミュレーション教育プログラム開発と評価

研究課題名（英文）Development and Evaluation of a Simulation Education Program to Improve the Quality of Psychiatric Nursing Care

研究代表者
藤野　ユリ子（FUJINO, Yuriko）

福岡女学院看護大学・看護学部・教授

研究者番号：９０３２０３６６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：　対人関係を基盤とする看護職にとって患者の精神的ケアは重要な役割である。しかし、近年は医療の高度化や疾病構造の複雑化により、看護学生が臨地実習で体験できる機会が少なくなり患者と直接コミュニケーションをとる機会も減っている。このような背景から、本研究では看護学生が精神的ケアを学ぶシミュレーションプログラムを構築し、実習前のトレーニングに活用しその有効性を検証した。
　その結果「このプログラムは効果的だった」といった指導法に関する満足度が高く「緊張感のある場面からの学び」「グループ学習による客観的な気づき」などリアルな場面から緊張感を持ちメンバーと学び合うプログラムの有効性が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
医療の高度化に伴い看護実践能力向上が求められる。一方、臨地実習では患者の権利と医療安全の見知から侵襲を伴う直接ケアの機会は減少している。特に精神的ケアは、看護技術の基本であるが、SNSによるコミュニケーションを多く使っている学生は、多様な背景を持つ方との治療的なコミュニケーションをトレーニングする機会がない。
　そのため、本研究では模擬的な臨床場面の中で患者への精神的ケア場面のトレーニングを目的としたシミュレーションプログラムを構築した。開発したプログラムは、4段階で深めることができ、事前に繰り返しトレーニングすることが可能であるため、今後の看護教育の基本的な技術習得のために貢献すると思われる。

研究成果の概要（英文）：The nursing profession, which is based on interpersonal relationships, plays an important role in the psychological care of patients. However, due to the increasing sophistication of medical care and the complexity of disease structures, in recent years nursing students have fewer opportunities to gain hands-on experience in clinical practice and fewer opportunities to communicate directly with patients.To address this, this study established a simulation program for nursing students to learn mental health care, and verified its effectiveness after using it for training before clinical practice.
　According to the results, response to the item, "This program was effective" indicted a high level of satisfaction with the instructional methods. Responses to the items "Learning from tense situations" and ""Objective awareness through group learning" indicated that the program was effective in creating a sense of tension and enabling participants to learn from each other in real situations.

研究分野：看護教育学

キーワード：シミュレーション教育　看護教育　コミュニケーション

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

1）看護教育におけるシミュレーション教育のニーズ

医療の高度化に伴い看護実践能力向上が求められている一方で、臨地実習では患者の権利と医療安全の見知から侵襲を伴う直接ケアの機会は減少している。その方策として、厚生労働省（2007）は看護基礎教育における臨床実践に近い状況を想定した演習の強化や、シミュレータの活用や状況を設定した演習の充実の必要性を述べている。また、生涯学び続ける専門職育成のためには、能動的な学習方略としてシミュレーション教育への転換の有効性が指摘されている（阿部 2013）。シミュレーション教育は、体験型学習を通して学びをデブリーフィング（振り返り）することで知識定着や主体的な学習姿勢の育成に効果が認められている。すなわち、看護実践能力向上、患者の権利の尊重、自ら学ぶ能力の開発等総合的に考えると、今後シミュレーション教育は極めて有効な教育ツールとなると期待される。

2）精神的ケア看護技術におけるシミュレーション教育の現状

上記のように、今後の看護学教育に果すシミュレーション教育の重要性は疑いないが、表情や言動を機械で表現することが困難であることや看護技術が状況依存的であり評価が困難なため精神看護学教育でのシミュレータの開発は導入が遅れている（山本 2013）。看護学生は、生活体験の少なさ、直接的コミュニケーション機会の減少から、精神疾患のイメージができず、精神疾患患者への不安は高い（岩﨑 2014）。これらを改善する 1 つの方法として、模擬患者やロールプレイによる演習効果の報告はある（加藤 2006、犬丸 2014）。申請者らはこれまで精神看護学演習で教員が患者役を行うシミュレーション教育に取り組んでおり、新設のシミュレーションセンターでリアリティのあるシミュレーション教育を計画している（藤野 2016）が、精神的ケア看護に関するシミュレーション教育のシナリオの蓄積や実践･評価に関する報告は少ない。また、在院日数の減少、地域医療発展に伴い精神的ケアが求められる場や対象は広がっているため、治療的コミュニケーション技術を系統的に身につけるための精神的ケア看護向上に向けたシミュレーション教育の開発は喫緊の課題であった。

3）大学から臨床への移行教育での精神的看護ケアとシミュレーション教育の評価

精神的看護ケアは、感情労働である看護師にとって基盤となる技術であるため、看護学生からのトレーニングの必要性が言われている（Akerjordet,2008）。精神的看護ケア技術は、精神症状を伴う患者の看護への対応はもとより、患者家族への説明、他職種との連絡調整、チーム内でのコミュニケーション能力の基盤となるものである。対人関係が基盤となる看護職にとって精神的ケアの技術向上にともなう対人関係能力向上は、ストレス対処能力やバーンアウト防止にも効果的である(Slaski2002)ため、シミュレーション教育による精神的看護ケアの対応技術向上は移行教育におけるストレス対処力向上にも有効である。

欧米では、シミュレーション教育のシナリオやプログラムの蓄積が進んでおり、その教育の有効性の検証も行われている。Spector ら（2015）は、シミュレーション教育を受けた割合別に新人看護師の知識・技術を臨床に応用する能力の評価し、縦断的にシミュレーション教育効果の検証している。しかし、わが国では精神的ケアに関するシナリオの蓄積も少なく、シミュレーション教育実践に関するアウトカム評価はないため、精神的ケアにおけるシミュレーション教育の開発と評価は早急に取り組む必要である。

精神的看護ケアにおけるシミュレーション教育プログラムの開発は国内外とも遅れているため、シナリオの蓄積とプログラム開発は急務である。これらのプログラム開発は、看護学生の能動的な学習スタイルの転換やコミュニケーション技術の向上、臨床場面で遭遇する精神的ケア場面の対応力を向上させる。これらの能力の向上は、大学から新人への移行教育におけるストレス対処能力へも効果的に働くため、新人看護師早期離職問題等にも汎用できる結果が期待される。また、シミュレーション教育のアウトカム評価に関する報告は少ないため、本研究における縦断的プログラム評価は、シミュレーション教育の質を高めるとともに、臨床看護の基盤となる精神的看護ケア能力向上に貢献することを目的に本研究に取り組んだ。

２．研究の目的

本研究目的は、精神的看護ケアの質向上を目指したシミュレーション教育プログラムを開発することである。本研究では、精神的看護ケアを患者との信頼関係を確立する中で精神的な健康問題に対して適切なコミュニケーションを活用できる援助と捉え、看護学生が精神的看護ケアの実践に必要なシミュレーション教育プログラムの開発を目的とした。

具体的に以下の 3 点について明らかにすることを目指した。

1）精神的ケア看護ケアにおける看護学生が修得すべきコミュニケーション技術
2）精神的ケアに必要なコミュニケーション技術を修得するために効果的な場面
3）コミュニケーション技術習得のためのシミュレーションプログラムの実践と評価

３．研究の方法

本研究では複数の調査研究を段階的に進め，これらを繋ぎながら精神的看護ケアの質向上を目指したシミュレーション教育プログラムの開発・評価を実施した。

第 1 段階：精神的ケア看護ケアにおける看護学生が修得すべきコミュニケーション技術につ

いて国内外の文献や先行事例を基ににについて検討した。
第 2 段階：精神的ケアに必要なコミュニケーション技術を修得するために効果的な場面を精選しプログラムの試作版を検討した。
第 3 段階：看護学生を対象に精神的ケアにおけるシミュレーションプログラムの実施と評価を実施した。

４．研究成果

1）精神的看護ケアにおける看護学生が修得すべきコミュニケーション技術とシミュレーション教育で活用できる効果的な場面について

看護学生が、精神的看護ケア場面で戸惑う状況の実態を抽出するために、文献調査、実践事例調査、学生および教員からのヒアリングを行った。その結果、精神的ケア場面のシミュレーションを使ったトレーニングには段階的に進めることが必要であることが明らかとなった。

精神的ケア場面のトレーニングの 4 段階は、第 1 段階【基本的なコミュニケーション技術のトレーニング】、第 2 段階【医療コミュニケーショントレーニング】、第 3 段階【コミュニケーション障害のある方とのコミュニケーショントレーニング】、第 4 段階【精神症状を有する方とのコミュニケーショントレーニング】であった。この結果から、精神的看護ケアのトレーニングは、看護初学者の段階から患者訪室場面を想定したシミュレーション教育の実践の必要性が示された。

第 1 段階の基本的なコミュニケーション技術のトレーニングは、患者訪室場面や挨拶、情報収集の場面である。第 2 段階は医療コミュニケーションとして、傾聴や共感などの技術を実践するために必要な知識やスキルを身につける段階である。第 3 段階は難聴や認知症などコミュニケーションの取りづらい方との対応場面のトレーニングである。これらの段階を経て、第 4 段階として、不安、幻聴、妄想など精神症状の有する方との対応場面のシミュレーションプロブラムとして構成した。

1～4 段階のプログラムを 2 事例の患者事例を想定したストーリーを構成して、それぞれ 5 場面を作成した。なお、患者事例は福岡女学院看護大学が開発した全領域が共有できる事例が居住する Web 上のバーチャルタウン「ミッションタウン」の住民として全領域で活用できるように設定した。

2）精神的看護ケアにおけるシミュレーション教育プログラムの検証

プログラムの検証は、看護大学 2 年生 111 名を対象に実施した。プログラムの評価には、Jeffries（2006）/ National League for Nursing (NLN)の開発した「Simulation Design Scale」「Student Satisfaction and Self-Confidence in Learning」を使用した。この尺度はシミュレーションの満足と自信度に関する 13 項目 5 件法で、得点が高いほど肯定的に評価されるものである。また、シミュレーション教育の感想や役立ったことに関する自由記述を求めた。

学生の満足度で高い項目は「この演習での指導方法は効果的で役に立った（4.56±.52)」が最も高く、「この演習で使用した教材は、学ぶ気にさせ、学習の役に立った（4.48±.56)」「私の担当教員が演習を進めるやり方は楽しかった（4.47±.61)」の順に高かった。

学生の自信度の項目は、「この演習で学ぶべきことを学ぶのは学生としての私の責任だ（4.54±.50)」「この演習は、基礎的な援助技術を修得するために欠かせない、重要な内容を取り扱っていたと確信している（4.49±.52)」の項目の得点が高かった。実習やコミュニケーション能力の向上に役立った演習内容は、「患者役からフィードバックを受けたこと（4.64±.50)」が最も高く、「メンバーの患者面談場面を観察したこと(4.62±.57)」「患者と面談を体験したこと（4.61±.62)」の順に高かった。

シミュレーションの感想や役に立ったことに関する自由記述の内容は 77 コード、11[サブカテゴリ―]、5【カテゴリー】が抽出された。【緊張感のある場面からの学び】は、[緊張感のある演習][模擬患者を活用した演習]から生成され、リアルな緊張感ある状況を体験することで実習での緊張が和らいだ学びを示していた。【グループ学習による客観的な気づき】は、[グループ討議による視点の広がり][グループメンバーからの気づき]から生成され、意見交換によって自らを客観視したことを示していた。【患者とのコミュニケーションへの応用】は[患者とのコミュニケーション場面のイメージ化][患者との接し方や会話の進め方の理解]から生成され、患者との会話をイメージできたことを示していた。【実習でのコミュニケーション場面に活かされる】は、[演習事例が実習で活かされる][実習の心構えと自信の獲得][実習でのコミュニケーション技法の活用]から生成され、実習の心構えができ活かされたことを示していた。【自己のコミュニケーションの気づき】は、[自己のコミュニケーションの理解][動画による自己のコミュニケーションの振り返り]から生成され、自己のコミュニケーションの理解を示していた。

本プログラムの検証により、精神的看護ケア技術を高めるためのシミュレーション教育によりで緊張感のある場面から、臨床をイメージすることができ、効果的で役立ったという評価が得られた。今回のプログラムは看護初学者の基本的なトレーニングであったため、精神症状を有する対象者への精神的看護ケア場面のシナリオを追加する必要がある。また、今後は、OSCE による客観的な評価を加えた教育プログラムの開発が課題である。

引用文献

厚生労働省：看護基礎教育の充実に関する検討会報告書(平成 19 年 4 月 16 日), https://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf

阿部幸恵：看護のためのシミュレーション教育,21-30,医学書院,2013,東京.

岩崎優子．山崎不二子．堀内啓子：精神看護学 実習において看護学生が直面する困難感とその出現時期,日本看護学教育学会誌 24(2),25-36 2014.

山本勝則,守村洋,河村奈美子：精神看護学におけるシミュレーション教育の概観と実践　精神看護学トライアル OSCE から構造化されたシミュレーション教育への移行，札幌市立大学研究論文集,7(1),53-59,2013.

加藤知可子：妄想患者に対する感情理解を深めるための看護シミュレーションの効果－ロールプレイにおける看護学士恵の認識を通して－,日本医学看護学教育学会,15,29-32,2006.

犬丸杏里他：模擬患者と学生の共同的パートナーシップに基づく演習の試み,三重看護学誌,16,43-45,2014.

藤野ユリ子,他：精神看護援助論演習におけるシミュレーション教育の取り組み,インターナショナル Nursing Care Research,189-194,2016.

Akerjordet,K. & Severinsson,E.: Emotionally intelligent nurse leadership: a literature review study, Journal of Nursing Management, 16, 565-577, 2008

Slaski,M., Cartwright S.:Health, performance and emotional intelligence: an exploratory study of retail managers, Stress & Health, 18(2),63-68, 2002.

Spector N.：The National Council of State Boards of Nursing’s Transition to Practice Study: Implications for Educators, Nursing Education,54(3), 2015.

Angelina Lilja Chadwick, Neil Withnell: Development confidence in mental health students to recognize and manage physical health problems using a learning intervention, Nurse Education in Practice, 19, 25-30, 2016.

Jeffries,P.R.& Rizzolo,M.A.(2006).Designing Use of Simulation to Teach Nursing Care of Ⅲ adults and Children: National, Multi-Site, Multi-Method Study.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計20件（うち査読付論文　12件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 藤野ユリ子,吉川由香里	４．巻 11
２．論文標題 患者とのコミュニケーション場面を想定したコミュニケーション演習の実際	５．発行年 2021年
３．雑誌名 福岡女学院看護大学紀要	６．最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 豊福佳代,八尋陽子,藤野ユリ子,吉川由香里,青木奈緒子,松井聡子	４．巻 11
２．論文標題 術直後の看護場面におけるシミュレーション教育の実践と評価	５．発行年 2021年
３．雑誌名 福岡女学院看護大学紀要	６．最初と最後の頁 43-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 吉川由香里,藤野ユリ子	４．巻 11
２．論文標題 教育用電子カルテを活用した情報収集シミュレーション学習会の学びの分析	５．発行年 2021年
３．雑誌名 福岡女学院看護大学紀要	６．最初と最後の頁 11-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 山田小織,藤野ユリ子,八尋陽子,吉田大悟,本田貴紀,平川洋一郎,石田有紀	４．巻 11
２．論文標題 統計学的思考をもった看護職を育成するための新ICT教材開発のプロセス	５．発行年 2021年
３．雑誌名 福岡女学院看護大学紀要	６．最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 藤野ユリ子,八尋陽子,吉川由香里,豊福佳代	4．巻 11
2．論文標題 看護基礎教育で活用する教育用電子カルテの開発～4年生への教育用電子カルテトレーニングによる課題の検討～	5．発行年 2021年
3．雑誌名 福岡女学院看護大学紀要	6．最初と最後の頁 35-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 藤野ユリ子,阿部幸恵	4．巻 37(1)
2．論文標題 日々のアセスメントとケアが一歩深くなる　患者のみかたと看護のしかた　第10日目「かえりたい」と廊下を徘徊する認知症の患者さん	5．発行年 2021年
3．雑誌名 エキスパートナース	6．最初と最後の頁 82-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤野ユリ子	4．巻 17(6)
2．論文標題 COVID-19対策を見据えたこれからの院内教育・授業のすすめ方【教材・実習編】コロナ禍におけるeラーニングを活用した教育の進め方	5．発行年 2021年
3．雑誌名 看護人材育成	6．最初と最後の頁 57-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤野ユリ子	4．巻 17(6)
2．論文標題 COVID-19対策を見据えたこれからの院内教育・授業のすすめ方【シミュレーション編】「コミュニケーションリテラシー」におけるオンライン・シミュレーション演習の実践	5．発行年 2021年
3．雑誌名 看護人材育成	6．最初と最後の頁 2-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤野ユリ子	4．巻 17(3)
2．論文標題 オンラインシミュレーションで学ぶ卒業生のフォローアップセミナー「呼吸のフィジカルアセスメント」	5．発行年 2020年
3．雑誌名 看護人材育成	6．最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤野ユリ子	4．巻 60
2．論文標題 学内全領域をつなぐミッションタウンと地域に開かれたシミュレーション教育センター	5．発行年 2019年
3．雑誌名 看護教育	6．最初と最後の頁 656-664
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤野ユリ子,吉川由香里	4．巻 16
2．論文標題 虚血性心疾患を有する患者の急変対応	5．発行年 2020年
3．雑誌名 看護人材育成	6．最初と最後の頁 68-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤野ユリ子,阿部幸恵	4．巻 36(9)
2．論文標題 日々のアセスメントとケアが一歩深くなる　患者の見方と看護のしかた,第5日目幻覚・妄想状態にある統合失調症の患者さん	5．発行年 2020年
3．雑誌名 エキスパートナース	6．最初と最後の頁 106-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 永吉絹子、樗木晶子、武富富久子、藤野ユリ子、中村雅史、赤司浩一、石橋達郎	4．巻 147
2．論文標題 九州大学病院における全医療人の働きやすい環境を目指したキャリア支援策	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本医師会雑誌	6．最初と最後の頁 2510-2516
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤野ユリ子,豊福佳代	4．巻 43
2．論文標題 Nursing Informatics Competency Scale日本語版（J-NICS）の開発	5．発行年 2020年
3．雑誌名 日本看護研究学会誌	6．最初と最後の頁 109-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15065/jjsnr.20190726067	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 吉川由香里、藤野ユリ子	4．巻 10
2．論文標題 看護大学1年生対象“血圧測定100本ノック！”トレーニングにおける学びの分析	5．発行年 2020年
3．雑誌名 福岡女学院看護大学紀要	6．最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 太田里枝，藤野ユリ子	4．巻 9
2．論文標題 福岡女学院看護大学看護シミュレーション教育センターの利用状況の実態と課題	5．発行年 2019年
3．雑誌名 福岡女学院看護大学紀要	6．最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 藤野ユリ子、山田小織　椎葉美千代　中村眞理子　吉野拓未　岩崎優子 平川善大　太田里枝　渡辺まゆみ　光安梢	4．巻 8
2．論文標題 福岡女学院看護大学看護シミュレーション教育センター開設1周年までの取り組み	5．発行年 2018年
3．雑誌名 福岡女学院看護大学紀要	6．最初と最後の頁 69-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 平川善大　藤野ユリ子、八尋陽子、椎葉美千代、丸山智子、薄井嘉子、青木奈緒子	4．巻 8
2．論文標題 University of Hawauu THSSC 研修報告－シミュレーション教育の向上に向けて－	5．発行年 2018年
3．雑誌名 福岡女学院看護大学紀要	6．最初と最後の頁 63-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 八尋陽子、藤野ユリ子、山田小織、吉武美佐子	4．巻 8
2．論文標題 看護大学生の批判的思考態度と日常生活スキルおよびメタ認知との関連	5．発行年 2018年
3．雑誌名 福岡女学院看護大学紀要	6．最初と最後の頁 9-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 藤野ユリ子,山田小織,八尋陽子,椎葉美千代,平川善大	4．巻 58(10)
2．論文標題 領域をこえて活用できるシミュレーションシナリオづくり「ミッションタウン」プロジェクト	5．発行年 2017年
3．雑誌名 看護教育	6．最初と最後の頁 810-816
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計8件（うち招待講演　0件／うち国際学会　2件）

1．発表者名 豊福佳代,八尋陽子,藤野ユリ子,吉川由香里,丸山智子,薄井嘉子,青木奈緒子,松井聡子
2．発表標題 術直後の看護場面におけるシミュレーション教育の実践と評価
3．学会等名 日本看護シミュレーション学会第1回学術集会
4．発表年 2020年

1．発表者名 吉川由香里,Mathew L. Porter, Kevin Weir,　藤野ユリ子
2．発表標題 漢語実践場面を再現した看護英語シミュレーションプログラムの実践報告
3．学会等名 日本看護シミュレーションラーニング学会第1回学術集会
4．発表年 2020年

1．発表者名 藤野ユリ子,八尋陽子,山田小織
2．発表標題 学生の思考をつなけるシミュレーション教育～Web仮想都市ミッションタウン」の活用から
3．学会等名 日本看護研究学会第46回学術集会
4．発表年 2020年

1．発表者名 Yuriko Fujino, Saori Yamada, Yukari Yoshikawa, Yoshihiro Hirakawa
2．発表標題 “Mission Town” the 4-Year lived experience of creating a virtual road map of simulation integration; for undergraduate nursing students in Japan
3．学会等名 INACSL（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 藤野ユリ子、八尋陽子、山田小織、吉川由香里、中村眞理子、丸山智子、薄井嘉子、青木奈緒子、豊福佳代、松井聡子
２．発表標題 シミュレーション教育は期待を裏切らない！～AISimの挑戦～「あなたならこのシナリオどう教えますか？」
３．学会等名 日本看護学教育学会第29回学術集会（国立京都国際会館）
４．発表年 2019年

１．発表者名 藤野ユリ子，八尋陽子，山田小織，椎葉美千代，平川善大
２．発表標題 オリジナル教材"ミッションタウン”を活用したシミュレーション教育の実際　領域を超えた共有事例の有効性
３．学会等名 日本看護学教育学会第28回学術集会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yuriko Fujino, Kayo Toyofuku, Yukari Yoshikawa
２．発表標題 Reliability and Validity of the Japanese Version of Nursing Inforomatics Competehcy Scale
３．学会等名 TNMC & WANS International Nursing Research Conference　in Thailand（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 藤野ユリ子，話題提供者：中村眞理子，平川善大，椎葉美千代，岩﨑優子，山田小織
２．発表標題 看護シミュレーション教育センター設立から教育実践への取り組み
３．学会等名 第27回日本看護教育学会学術集会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計2件

1．著者名 片野光男、山田小織、藤野ユリ子、八尋陽子	4．発行年 2020年
2．出版社 クオリティケア	5．総ページ数 103
3．書名 福岡女学院看護大学が開発した「第4の教材」ミッションタウンへようこそ	

1．著者名 阿部幸恵，藤野ユリ子	4．発行年 2018年
2．出版社 日本看護協会出版会	5．総ページ数 183
3．書名 看護基礎教育におけるシミュレーション教育の導入	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山崎　不二子 (YAMASAKI Fujiko) (20326482)	福岡女学院看護大学・看護学部・教授 (37126)	
研究分担者	田中　理子 (TANAKA Michiko) (20648480)	九州大学・薬学研究院・特任助教 (17102)	
研究分担者	豊福　佳代 (TOYOFUKU Kayo) (50737195)	福岡女学院看護大学・看護学部・講師 (37126)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	平川　善大 (HIRAKAWA Yoshihiro) (90784819)	福岡女学院看護大学・看護学部・助教 (37126)	削除情報　2018年9月25日
研究分担者	吉川　由香里 (YOSHIKAWA Yukari) (80828111)	福岡女学院看護大学・看護学部・助教 (37126)	
研究分担者	八尋　陽子 (YAHIRO Yoko) (70584720)	福岡女学院看護大学・看護学部・教授 (37126)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関